

平成29年1月26~2月16日実施

## 「小学生ってどんな時期？」の様子

【第1回】小学1年生・2年生編

講師：徳永 和美さん

(カウンセリングスペース「リヴ」発達支援チーム/勝山ファミリーカウンセリンググループ副代表)



☆「わかる（知識）」と「できる（体験）」は、違います。大人が子どもにしてしまいがちなことは、分からせようとしてしまうこと。

☆いいこと・悪いことは分かっているけど、できないって、大人でもありますよね。

分かっているからできるはずだと思わないことです。「分かっているけどできないのってつらいよね」と子どもの気持ちに寄り添うことも必要です。

☆「わかる」が「できる」ようになるためには、体験しかないのです。1・2年生で、心の成熟がまだなうちは、大人が声かけしたり、環境を整えたりして、子どもの「できる」を増やしていく必要があります。学校から帰ったらやることを、絵や写真で順番にはっておくなど、目で情報が入るような工夫もありますね。

☆幼児期は、「できた」を与えられることが多いけど、学童期は「できた」を自分で得る時期。

☆何歳だからで「できる」ではなく、その子にあった「できる」でよい。

☆声かけのポイント

- ×「走ったらダメ」→子どもは怒られたと感じてしまう
- 「歩こうね」

☆しつけの極意

- ・何回も失敗する と思っておく
- ・短いフレーズで何度も
- ・できたらほめる

## 【第2回】小学3年生・4年生編

講師：佐藤 まどかさん

(カウンセリングスペース「リヴ」発達支援チーム)

☆3・4年生になったら「親に心配かけたくない」という思いが出てきて、本当のことを言えなくなったりする。

☆人の目を意識するようになって、「はずかしい」「かっこわるい」と思うようになるのもこの時期くらい。

☆嘘をつくのは、嘘をつかないといけない事情が子どもに必ずある。その事情を分かってあげる。本当のことを話した時は、絶対に怒らず、まず話してくれたことを評価する。



☆注意するときのポイントは、「未来への恐怖を伝えない」

3・4年生になると、少し行動範囲も広がります。ある一定のルールを決めていても知らないうちにその範囲を超えてしまうこともあるかもしれません。

×「遠くへ行ったら、こわいことが起こるよ！」(怖くなって、何もできなくなります)

○「間違えて遠くへ行ったら、困ったことが起きたら、まわりの大人に助けてって言ってね」(何かあったときの対処法を伝えておくことで、未来に希望がもてます)

☆大人も覚悟が必要になります。

ずっと子どもにくっついて助けることは無理。

子どものことを100%分かるのは無理。

→子どもに力をつけるしかないのです。日頃の注意の言葉は脅さないことがポイントですね。

☆声かけのポイントは、「まず否定しない」

友達とケンカして学校に呼び出されたとき…

×「何してんの!？」(まず否定してしまうと、子どもは何も話せなくなります)

○「大丈夫?ケガない?」(まず子どもの心配をすると、子どもも落ち着きます)

最初の一言で、その後の子どもの気持ちも変わるので、注意したいですね。

### 【第3回】小学5年生・6年生編

講師：佐藤 まどかさん

(カウンセリングスペース「リヴ」発達支援チーム)



☆5・6年生は、今までの価値観をいったんつぶす時期で、親をけなしたり、反抗したりするのは、健全なこと。

☆大切なのは、「子どもの挑発にのらない」「子どもの不機嫌にのらない」こと。これを合言葉に。

☆でも、子どもが助けてと言ったら、いつでも助けるよという態度をしめしておく。

☆子どもは、大人が思っているより、家のことや大人の事情に気がついているし、気をつけています。言いにくい話でも、ごまかしたりはぐらかしたりしないで、きちんと、誠実に話すことが大切。言えないときには、「今は言いたくないけど、いつか話すからね」と正直に言ってあげてください。これは、子どもの年齢に関係なく、もっと小さい子どもでも同じです。

☆親が何を思っているのか、子どもに分かる方がいいです。

子どもが約束の時間より遅く家に帰ってきたとき

× 鍵をしめる（親が何を思っているか分からない）

○「遅いから心配してたよ」（心配していることが伝わる）

☆5・6年生までに、規範意識は教えておかないと、その後でなかなか入りにくいです。

「叱る」より、「ゆずらない」ことを決めて、絶対にぶれないことが大切です。

「ゆずらない」こと→例えば、命にかかわること、自分や他人の身体や心を傷つけること、法律で禁止されていることなど。

## 【第4回】お勉強編

講師：大阪市教育委員会事務局指導部総括指導主事

### ★子どもの学力向上のためにできること

- ・ 基本的な生活習慣の確立
- ・ 子どもの意欲を高める

### ★基本的な生活習慣の確立について

#### ☆睡眠不足は…

イライラする、攻撃性が高まる。  
忘れ物が多い、肥満になりやすいなどの  
さまざまな悪影響があります。



☆朝ごはんを食べている子どもの方が、食べていない子より、テストの正答率が高いという調査結果もあります。

☆携帯電話やスマートフォンを持たせるときには、家庭でのルールを決めましょう。

### ★意欲を高めるためには…

きちんと「認める」・ しっかり「ほめる」・ 心から「感謝する」・ 素直に「喜ぶ」  
ほめるポイント：「結果よりも過程を」「能力よりも努力を」

☆子どもに声をかけるとき、「はい」「いいえ」で答えるクローズドクエスションよりも、「はい」「いいえ」では答えられないオープンクエスションの方がよい。

× 「もう宿題やった？」 ← 疑念と点検の意味に聞こえてしまう

○ 「今日はどんな宿題出た？」

### ♡アンケートより♡

- ・ 子どもとの接し方の参考になりました。子どもの「できた」を増やせるように、声かけなど意識してみます。
- ・ つい、できないことに目がいって、ダメだしばかりしていることを再確認しました。
- ・ 経験に基づいて、分かりやすいように話してくださり、大変勉強になりました。
- ・ 共感できる話がたくさん聞けて心が楽になりました。
- ・ 子どもの言動を否定ではなく肯定からとらえる姿勢がすごいなと思いました。
- ・ 全国学力学習状況調査の結果などが、今回のように有意義に役立っているということをもっと保護者などに知らせてほしい。
- ・ 今後も、子育て講座には積極的に参加しようと思った。
- ・ 改めて、子どもに対する大人の言葉づかいや態度が重要だと思った。まずは、早寝・早起き・朝ごはんをしっかりと実行したい。